

自動化書庫システムと図書館システムの連動運用について —国際基督教大学図書館の運用事例報告pt.2— Interlocked operation between Library System and Automated Storage and Retrieval System. Case study pt.2 at International Christian University Library.

黒澤 公人*

抄 録

本誌の25号に、「自動化システムの導入と運用について」を報告した。本稿では、自動化書庫システムと図書館システムを連動して運用する上での注意点や運用上発生する長期出庫中図書や入庫トラブルの対処方法について報告する。

目 次

- はじめに
1. 図書の出庫指示と利用方法
 - 1.1 Web-Opacから出庫指示を出す
 - 1.2 専用書架への配架
2. 出庫図書の入庫サイクル
 - 2.1 利用されなかった図書
 - 2.2 館内利用された図書
 - 2.3 貸出された図書
 - 2.4 リザーブブックに指定された図書
3. 長期出庫中図書の種類と対策
 - 3.1 開架書架に配架される
 - 3.2 館内放置図書
 - 3.3 入庫処理での作業ミス
 - 3.4 行方不明図書の断定と処理
4. 入庫トラブル
 - 4.1 開架図書にあるべき図書の入庫
 - 4.2 貸出中図書の入庫
 - 4.3 行方不明本の入庫
5. 自動化書庫システムの書誌データ管理方法
 - 5.1 書誌の作成
 - 5.2 書誌データの無い図書の入庫
 - 5.2.1 一括データの取込み
 - 5.2.2 オンライン増加転送
 - 5.2.3 オンライン個別転送
6. 自動化書庫と図書館システムの連動
 - 6.1 システム間の通信の流れ
 - 6.2 運動して動くためには
 - 6.3 待機出庫処理
 - 6.4 Backup処理と再起動
 - 6.5 自動化書庫システムと図書館システムの通信の連動

- 6.6 通信トラブルの発見とその対応
 - 6.7 自動化書庫システムと図書館システムのデータの整合性について
 7. 自動化書庫システムと図書館システムの連動運用を成功させるために
 - 7.1 チェックリストの作成
 - 7.2 連動運用できないシステムのために最後に
- 最後に
補遺 簡易版 自動化書庫システムと図書館システムの連動について

○はじめに○

本誌25号(2004年2月号)で、「自動化書庫の導入と運用について」を報告した。本稿では、自動化書庫システムと図書館システムを具体的にどのように連動運用しているのかを報告する。本学図書館では、丸善のCALISを1991年より利用している。2000年に自動化書庫の導入にとりまわって、自動化書庫と図書館システムが連動して運用できるように、その機能を追加した。

○ 1. 図書の出庫指示と利用法 ○

本学図書館では、全面開架制度をとっており、

英国のポータル・プロジェクト —JISC Portals Programme— Portal Projects within the higher education community across the U.K. : JISC Portals Programme

呑海 沙織*

抄 録

英国では情報システム合同委員会(Joint Information Systems Committee, 以下JISCと略す)により、2002年4月1日より、ポータル・プログラム(Portal Programme)が、3年計画で実施されている。

本稿では、このJISCによるポータルに関するプロジェクト及び情報環境アーキテクチャを考察することによって、英国の大学等の高等教育機関におけるポータルについて論考する。

目 次

- はじめに
- JISCとは
- JISCによるポータル・プログラム
- JISCによる情報環境アーキテクチャ
- 英国の高等教育におけるポータル・プロジェクト

○ 1. はじめに ○

「ポータル」という言葉が図書館界で使用されるようになって数年が経過している。2000年には、ARL (Association of Research Libraries) によって研究者ポータル・ワーキング・グループ(Scholars Portal Working Group) が立ち上げられ、2002年5月には、7つのARL参加館とフレットウエル・ダウンング社(Fretwell-Downing Inc.)によって研究者ポータル・プロジェクト(Scholars Portal Project)が開始されている。日本でも、国立大学図書館協議会による「電子図書館の新たな潮流: 情報発信者と利用者をつなぐ付加価値インターフェイス」¹⁾において、新電子図書館システムを構成する機能として図書館ポータルを取り上げ、「大学図書館に共通する課題として、

その重要性を認識し、標準的なモデルの確立を早急に行う必要がある」としている。また、2004年1月にはNIIによる初めての「学術ポータル担当者研修」が3日にわたって開催された。京都大学や明治大学、同志社大学等、いくつかの大学図書館では利用者自身がカスタマイズできる図書館ポータルを提供している。

英国の高等教育機関においても、情報システム合同委員会(Joint Information Systems Committee, 以下JISCと略す)²⁾により、2002年4月1日より、ポータル・プログラム(Portal Programme)が、3年計画で実施されている。

本稿では、このJISCによるポータルに関するプロジェクトを考察することによって、英国の大学等の高等教育機関におけるポータルについて論考する。

○ 2. JISCとは ○

英国の高等教育におけるポータルについて言及する前に、JISCについて簡単に述べたい。

JISCは、高等教育に情報通信技術を活用するこ

*どんかい さおり 京都大学人間・環境学研究所総合人間学図書図書館 平成16年5月27日受理

札幌医科大学附属図書館における電子ジャーナルの管理と運用 —学術ポータルシステムMetaLib/SFXによるOne Stop Shopの試み— Management and employment of electronic journals in Sapporo Medical University Library : case report of one stop shop service by scholarly portal system "MetaLib/SFX".

今野 穂*

抄 録

今日、急速な勢いで普及している電子ジャーナルは学術コミュニケーションの様々な側面において変化をもたらした。大学図書館においてはOPACやMEDLINEなどWeb上の他の情報源とのリンクが可能であるという電子ジャーナルの特性を活かした学術情報の提供が求められている。

本稿では札幌医科大学附属図書館の電子ジャーナルの管理運用について学術ポータルシステム「MetaLib/SFX」を中心に紹介するとともに、今日の学術情報提供の在り方において不可欠と考えられる「One Stop Shop」に対するSFXの役割について述べる。

目 次

- はじめに
- 電子ジャーナル整備状況等
 - 2-1 読取
 - 2-2 提供方法
- MetaLib/SFX
 - 3-1 導入経緯
 - 3-2 MetaLib
 - 3-3 SFX
- SFXの運用状況
 - 4-1 SFX Enabled Resourcesの管理
 - 4-2 KnowledgeBaseの管理
 - 4-3 カラー率とリンクレベル
- 今後の課題
 - 5-1 電子ジャーナル提供方法の整理統合
 - 5-2 業務用システムのOpenURL対応
 - 5-3 Serials Crisisへの対応
- おわりに

○ 1 はじめに ○

今日、急速な勢いで普及している電子ジャーナルは学術コミュニケーションの様々な側面において一石を投じている。大学図書館においてもその影響は顕著であり、利用者の動向の変化はもとよ

り、導入の検討や管理運用を行う中であっては土田らが指摘しているように大学図書館の「サービスの本質」¹⁾ についてあらためて考えさせられることも決して少なくはない。学術情報の多くを冊子体に依存していた時代の大学図書館はOPACを中心とした物理的な所在情報管理や参考調査を主なサービスとして提供してきたが、電子ジャーナルに比重を移しつつある今日においてはホームページのポータル化はもとより、MEDLINE等の二次情報データベースとの連携が可能であると言った電子ジャーナルの特性を用いた「One Stop Shop」によるサービスの実現が急務の課題となっている。

札幌医科大学附属図書館(以下、「当館」と言う)は1999年6月の新図書館開設時より文献検索から原報入手までの過程の一元化を目的とし、MEDLINE等の二次情報データベースとOPAC、ILシステムとの異種データベース間連携を独自に構築し、提供してきたが²⁾、現在、積極的な導入を

ネットワークセキュリティ —おうちで高速・安全インターネット— Network security : High-Speed and Safety Internet life in Home

宮崎 紀子 相田英美子 芦北 卓也*

抄 録

自宅のネットワーク環境のブロードバンド化が進む中、個人レベルでのネットワークセキュリティについて知識が求められるようになってきた。図書館は、ネットワーク環境を活用したサービスを行うという観点から、サービスの運用にあたってはセキュリティに関する知識も必要とされてくる。ただ、これまでは職場と自宅との環境があまりにも違っていたため、ネットワークセキュリティも専門技術とされ、個人レベルの意識は低かった。しかし、ブロードバンド化が進む今、ネットワークセキュリティに関する知識が、個人にも求められるようになってきている。福岡支部では、以前からネットワークとそのセキュリティ技術について注目をしてきたが、このような社会状況を、受け、自宅(個人レベル)でのネットワークセキュリティに焦点を当て、個人のスタイルと、その知識を自宅だけでなく職場でも活かすことを目指し、2004年1月に研究会を開催した。

目 次

- はじめに
- 概論: ブロードバンド時代のセキュリティ
- パソコン1台でのセキュリティ対策—日ごろの備え大切に—
- 家庭内LANでのセキュリティ その1 (有線LAN)
- 家庭内LANでのセキュリティ その2 (無線LAN)
- グループ構築
- まとめ
- アンケート結果
- さいごに

○はじめに○

研究会は1月24日(土)～25日(日)にヘルシーバル船小屋(福岡県筑後市)で開催しました。参加者は29名(内訳:福岡支部 19、支部外 7、会員外 2)。形式は講義形式。参加者は申込の際の情報をもとに4～5人程度の班に分け、各班にはアドバイス役となる人物を1名以上配置して参加者をサポートできるようにしました。

本稿ではこの研究会の内容をまとめ、今回の研究会の意味と、今後の課題を検討しました。

○ 概論: ブロードバンド時代のセキュリティ ○

宮崎 紀子

1. はじめに

この研究会では、自宅のネットワーク環境とそのセキュリティについて考えます。自宅でも高速インターネットへの接続が可能になり、みなさんはインターネットの便利さや楽しさを日々享受しておられると思います。しかし、それはこれまで以上に真実にネットワークセキュリティについて考える必要があるということも意味しているのです。

今回の研究会の目標は、自宅のネットワーク環境の概要を知った上で、ネットワークセキュリティの必要性について理解し、自分が被害者に、

*みやざき のりこ 長崎大学附属図書館
そうだ ふみこ 西崎大学図書館
あしきた たくや 九州大学附属図書館(現福岡教育大学附属図書館) 平成16年4月30日受理

『吾輩八猫デアル』を最初に英語訳した安藤貴一 Ando, Kanichi, who translated Soseki's novel "I am a cat" into English first.

和田 長丈*

抄 録

夏目漱石の小説『吾輩八猫デアル』(上篇 第1章—第5章)がはじめて単行本として出版されたのは明治38年10月だった。その翌年の明治39年10月に第1章と第2章を英語訳した単行本が同じ出版社から出版された。明治42年には第3章と第4章の英語訳が出版された。訳者は当初、長野県上田中学校の英語教師だった安藤貴一である。英語訳成立の事情と漱石の対応、安藤貴一の生涯について公開の資料から探った。

目 次

- 序章 安藤貴一というひと
- 第1章 「吾輩は猫である」英語訳の刊本について
- 第2章 安藤の英語訳「I AM A CAT」と「I AM A CAT II」
- 第3章 「I AM A CAT」とクラーク教授
- 第4章 安藤貴一の生涯
 - 第1節 私塾と独学で英語教師に
 - 第2節 鹿児島県立第一中学校に赴任、迎えた転機
 - 第3節 初めての洋行「英語青年」の常連になる
 - 第4節 安藤貴一の急逝、追悼するひとひと
- 終章 安藤貴一の墓

○序章 安藤貴一というひと ○

安藤貴一は明治11年に生まれ大正14年に死んだ英学者で、いまではほとんど忘れられている。安藤貴一については、新井清司氏(埼玉県桶川市立図書館)が「書誌調査 1992」に発表されたものが唯一のまとまった文献であると思われる。新井氏は2001年にも「コナン・ドイル書誌調査余談」の中で「英学者・安藤貴一をふたたび紹介したほか、『アロクホームズ大事典』においても安藤貴一を紹介した¹⁾。

若切信一郎氏(東京文化短期大学)は「東京文化短期大学紀要」第15号(1997年)で安藤をこ

く簡単に紹介した²⁾。本稿では、夏目漱石の「吾輩は猫である」英語訳をめぐる事情を公開された資料によって探ってみるとともに、安藤貴一の生涯を、両氏の研究に若干つづけて紹介する。

安藤貴一の幼年時代には、初等教育の制度はまだ確立しておらず、このころ生まれた人々の初等・中等教育はさまざまである。安藤の幼少年時代はあきらかではないが、英語の私塾と独学で英語を学び、文部省の英語科教員検定試験に合格して中学校の英語教師になって、さらに独学で英語力をつけた。すくなくとも宣立の高等学校、大学は出ていない。能力と人柄がかわれて教職を歴任し、この間に約1年半の大阪市立大学の前身のひとつ(現在に2度目の外園出張(留学)に出かけ旅先で病没した。

安藤貴一は夏目漱石の「吾輩は猫である」第1-4章を初めて英語に翻訳して単行本として発表したほか、菊池寛や芥川龍之介の小説を英語訳したものを雑誌「英語青年」に連載した。また留学先の英国事情を「英語青年」にたびたび寄稿した。英訳「鷗鷗の彼方に」(菊池寛著)と英訳「俊寛」

*わだ ひさとも(東京支部/元東京農工大学附属図書館) 平成16年4月28日受理

幕末の情報人 —森村新蔵「享和以来新聞記」を読む— It reads "Kyowa Irai Shimbunki" written by Shinzo MORIMURA who is a well-informed person of the last days of the Tokugawa shogunate.

落合 延孝*

抄 録

去る2004年2月7日(土)総評会館で行われた、関東5支部新春合同例会、落合延孝先生の「幕末の情報人 —森村新蔵「享和以来新聞記」を読む—」の講演記録である。

目 次

- はじめに 森村新蔵との出会い
- 1 情報のネットワークと人間関係
- 2 新蔵の読書と文化的なつながり
- 3 幕末維新期の情報と文化
- おわりに

○はじめに 森村新蔵との出会い ○

私が群馬大学に赴任したのは1980年です。最初は教養部に所属していたのですが、93年10月に社会情報学部へ配置換えになります。社会情報学部という職場にいますと、学生の関心が情報にあるので、私の研究も江戸時代だけでなく、歴史を情報という視点から捉え直す仕事をしてみたいという気持ちが強くなりました。

享和以来新聞記、伊勢崎市立図書館にあった「享和以来新聞記」を読む機会ができたのです。1803年から1868年の65年間の情報を記録した「享和以来新聞記」です。この風説留は、上野国那波都連取村(現群馬県伊勢崎市)の森村新蔵が記録したもので、巻一—巻十六、「附録雑集」、計22冊に及びるものです。この風説留を検討してみたいという気持ちが強くなりました。

森村新蔵は、1794年に生まれ、1874年2月3日に81歳で死んでいます。幕末には旗本駒井藩の地役人を勤め、1863年3月に存の太左衛門が跡を継ぐまでの42年間、村政や地頭所役人として活躍していました。

新蔵の人生のなかで特筆すべきことは旅でした。彼の墓碑には「五十八国著記行三十余巻、以為東西見聞誌常存座右」と刻まれ、江戸時代の後期に五八ヶ国を旅し、「北国見聞記」や「西国見聞記」などの旅行見聞誌を著し、常に座右に置いていました。1841年6月11日から9月23日まで、水戸を通り太平洋を北上し、仙台—盛岡を経て、箱館・松前の蝦夷地まで行き、日本海側を秋田・新潟を通って三田峠から上野国へ帰る北国周遊の旅をしています。1848年2月から8月18日までの約半年間、東海道から京都—大阪を経て、四国に渡り、瀬戸内海を遡って安芸の大坂を過ぎ、九州を一週し、帰りは山陰・北陸地方を通り、善光寺を参詣して帰国しています。この二回の周遊で日本全国をほぼ一周しています。¹⁾

今日は情報留である「享和以来新聞記」を中心に、彼の情報ネットワークと人間関係を在文化との関わりから話をしたいと思います。

*おちあい のぶたか 群馬大学社会情報学部教授 平成15年4月26日受理